

---

# 国語分科会

---

## I 研究のあゆみ

4月18日(木)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月1日(水)	研究計画の検討	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
5月31日(金)	研究内容の検討(第2次実践の検討)	【教育館】
7月22日(月)	研究のまとめ方(または個別指導)	【東桜小】
8月19日(月)	レポートの検討(または個別指導)	【東桜小】
9月2日(月)	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【教育館】
9月21日(土)	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

## II 研究協議の概略

話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言語といった様々な領域から、「未来を創ることばの力」の育成をめざした実践が、46本のレポートにまとめられている。

目の前の子どもの課題を的確に捉え、児童生徒が学習の見通しをもって、自走しながら「ことばの力」を獲得していけるような手立てを工夫した実践や、課題設定時や課題解決時等、様々な学習段階において友達と助言し合ったり、考えを共有したりする機会を設けた実践が、特に多く報告された。また、子どもの学びを促進するためICT機器を効果的に活用している実践もあった。実践者が、子どもの「主体的な学び」を追求し、創意工夫しながら実践に取り組んでいることが感じられる。

## III 今後に残された課題

- 学習形態や学習の型ありきで授業を組み立てていくのではなく、「子どもがどのような力を身に付けられるとよいか」ということを念頭に置いて授業を組み立てていくことを意識する必要がある。
- 子どもが、国語科で学んだり身に付けたりした資質・能力を、日常生活のどの場面で、どのように活用することができるようになるかを教員が意識させることも重要だが、子ども自身が自分に身に付いた資質・能力を認識することができる力も同時に育てていくことが必要である。
- 小学校と中学校で、実践内容が重複することのないよう、また、同じ方向性をめざすことができるよう、異校種間でどのように連携していくかを考える必要がある。